

昨年度の成果と課題

取り組みにおける成果と課題

- ・昨年度の体力テストの結果からほとんどの学年の体力合計点が全国平均、東京都の平均より低く、年々低下傾向にある。特に跳ぶ力や投力が全体的に弱く、改善する必要がある。
- ・運動能力が高い児童は、日常的に運動をしていて、できない児童は体育の学習以外の時間を使って運動することが習慣化していない。運動習慣の二極化が進んでいる。
- ・「早寝・早起き・朝ごはんカード」の取り組みから生活習慣がまだ確立できていない児童がたくさんいるため、家庭との連携と啓蒙を図り続ける必要がある。

平成28年度の調査結果の分析

結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> ○「関心・意欲・態度」については、全体的に関心・意欲は高く、学習に取り組む態度もよい。特に「ゲーム・ボール運動」領域の学習意欲が高い。 ○「思考・判断」については、指示された課題には取り組めるが、自分で自分に合った課題を設定して取り組むという点では、十分でない部分がある。また、児童同士の関わりや肯定的な言葉かけも少ない傾向である。 ○「技能」については、生活経験の違いや、関心・意欲とも関連する面もあるので、個人差への対応が課題である。低学年では、「器械・器具を使った運動遊び」「水遊び」領域、中学年・高学年では、「器械運動」領域の鉄棒・マット運動における技能の個人差が大きい。 ○「知識・理解」は、日常生活の中での意識の仕方に個人差が大きい。正しい知識を習得することの必要性や有用性を自覚させることが課題である。
-------	---

調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

○全校での取り組み

- ・「一校一取組」運動として全校での取り組み ～全職員で取り組む体制を作る～

- ・長縄 ・道塚 Run Run Time ・短縄タイム(リズム縄跳び)

通年で長縄に取り組み(月一回体育朝会・学期末に長縄大会を実施)、基礎的基本的な体力を身に付ける。

全校共通の持久走カードや縄跳びカードを配布し、日常化させることで体力向上につなげる。

- ・20分休みを昨年度より5分間延長することにより、体を動かす時間をより多くとるようにし、体力増進につなげていく。
- ・体力テストの結果や分析を載せた便りを発行して、保護者が子どもの体力について関心を高め、協力してもらうようにする。
- ・服装や身だしなみなど体育の授業の決まりを確認し、全校で守っていく。
- ・リズム太鼓と笛のよさを活かして使い分けて使用していく。
- ・運動量の確保を心がけ、大きな授業の流れを統一していく。

1. 集合 整列・学習の流れ・めあての確認等 ⇒ 2. 準備運動 ⇒ 3. 補助運動(主運動につながる運動) ⇒ 4. 主運動 ⇒ 5. 学習のまとめ 整理運動等

- ・集団行動を徹底して身に付けさせるために全校集会の時に継続して行う。

○各学年における取り組み

<低学年>

- ・興味・関心を引き出し意欲的に運動に取り組めるように教材教具を整備する。また授業のめあて、展開や技能のポイントなどを分かりやすく掲示して、児童が楽しみながら活動に参加できる工夫をしていく。
- ・体づくり運動やストレッチを意図的に授業前半などで取り入れ、体力の向上や柔軟性を高められるように指導を工夫する。
- ・児童同士のかかわり合いを大切にする授業を展開していく。ルールを守り、友だちに対して「じょうずだね。」「がんばれ。」などの肯定的な言葉かけを通して、集団で仲良く運動ができるようにする。
- ・自ら進んで継続的に運動に取り組む児童を育てるために休み時間に縄跳び・長縄・マラソンなどに学習カードを活用して積極的に参加するように声かけをしていく。また、投力を楽しみながら向上させる場を作る。
- ・規則正しい生活習慣の確立を目指すため、「早寝・早起き・朝ごはんカード」に取り組みさせる。(年3回)

<中学年>

- ・「できなかったことができた。」と実感し、楽しさを味わい進んで運動に取り組む児童を増やすために、場の工夫や教材教具を工夫する。
- ・体づくり運動やストレッチを意図的に授業前半などで取り入れ、体力の向上や柔軟性を高められるように指導を工夫する。
- ・技能のポイントを学年別で共有する学習カードや掲示物を活用してスモールステップでしっかりとおさえ、継続して身につけさせる工夫をしていく。
- ・自ら進んで継続的に運動に取り組む児童を育てるために25分休みや昼休みなどに縄跳び・長縄・マラソンなどに学習カードを用いて積極的に参加するように声かけをしていく。また投力を楽しみながら向上させる場を作る。
- ・「かかわり合い」を通して、肯定的な言葉かけと教え合いを通して自分を見つめ、友達にも認められるような環境を作っていく。
- ・規則正しい生活習慣の確立を目指すため、「早寝・早起き・朝ごはんカード」に取り組みさせる。(年3回)

<高学年>

- ・教材教具・場の工夫をし、様々な運動に意欲的に取り組めるようにする。
- ・自ら進んで継続的に運動に取り組む児童を育てるために25分休みや昼休みなどに縄跳び・長縄・マラソンなどに学習カードを活用して積極的に参加するように声かけをしていく。また投力を楽しみながら向上させる場を作る。
- ・意図的に活動の中にペアやグループ活動を取り入れ、児童同士の「かかわり合い」を重視していく。技能のポイントを抑えながら友だちの良いところについて認めて、お互いが高め合えるように授業の展開を工夫していく。
- ・「心の健康」について考える機会を増やしていく。養護教諭、栄養士や専門の方と連携を図りながら生活習慣病や薬物乱用についての理解を図り、知識を活用する活動を実施していく。また、自分たちの生活習慣を見直すために「早寝・早起き・朝ごはんカード」に取り組みさせる。